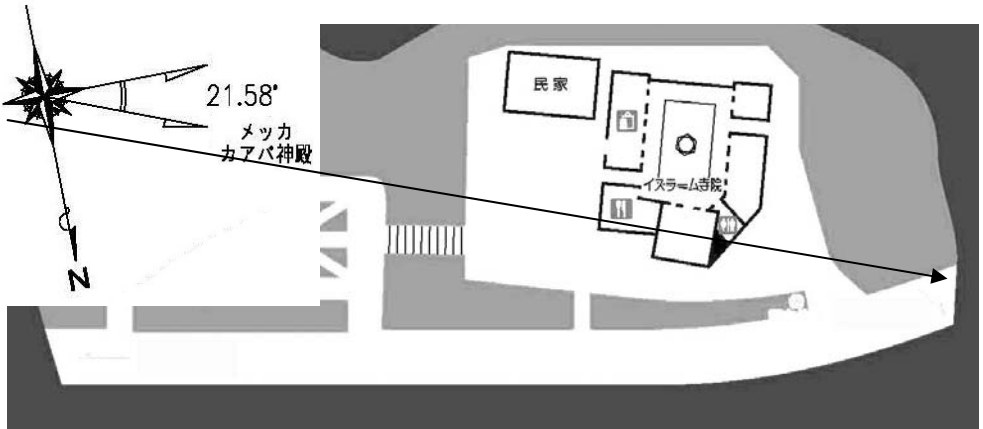


「トルコ イスタンブールの街」

古来より文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、イスタンブール。1600年もの間、いくつかの帝国の首都であった旧市街は、ユネスコの世界文化遺産にも指定されています。ここに復元した伝統的民家とイスラーム学院(メドレセ)の2棟は、オスマン帝国時代に建設され、今も旧市街にたち活用されている建物をモデルとしています。



【微妙にずれた配置 キブラ Qibla】

周遊路や側溝からみて、家屋が微妙にずれているのわかりますか？ 今回の建物の配置の軸は、キブラと呼ばれる方角です。イスラームを信じる人びと(ムスリム)は1日5回の礼拝を義務としています。その礼拝は、聖地メッカのカアバ神殿(サウジアラビア)に向かってするものと決まっており、その方向を示すために、復元したメドレセの講義室にもミフラブというくぼみを壁に設けてあります。このミフラブのある壁を正確にメッカに正対させるため、厳密に計算して、家屋の配置を少しずらしました。リトルワールドの小さなこだわりです。

メフメット・アーってどんな人？

展示家屋のイスラーム学院(メドレセ)を建てた人、メフメット・アーはオスマン帝国のトプカプ宮殿で、ハーレムを司る責任者でした。ハーレムはスルタン(王、皇帝)のプライベート空間であり、スルトンの妃たちや子供たちが暮らす場所でもありました。御所でいえば「後宮」、江戸城でいえば「大奥」のようなところです。

この役職の正式名称はダリュッサーデ・アースですが、親しみを込めてクズラルアースと呼ばれました。クズは「乙女」という意味で、ハーレムに暮らす女性たちをとりまとめる役目からついたそうです。

次の王となる皇太子やその母と常に接し、親身に世話をし、信頼を得なければ務まらない役目です。もちろん、スルタンとも日頃から接する立場ですので、自然と発言権が増し、宮殿の中では、スルタン、大宰相に次ぐ高い地位にありました。

クズラルアースになるためには、いくつかの条件がありました。帝国の中枢を担う人材ですので、頭脳明晰であることは当然です。ハーレムを守るという重要な役目のためには、さらに清廉潔白、品行方正でなければなりません。スルトンの妃たちとの清い関係をはっきりさせるために、ハーレムに務める男たちはみな去勢をした者、宦官でした。

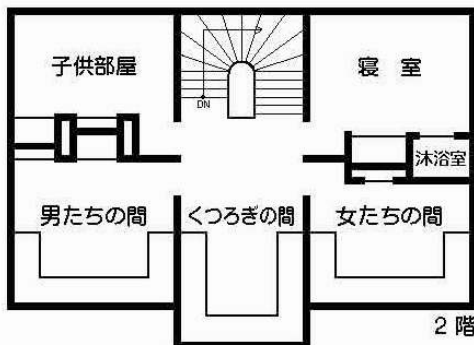
ムスリムは去勢を禁止されているので、異教徒・異民族の少年を去勢して宦官とすることが常でした。メフメット・アーもトルコ人ではありませんでした。彼はアビシニア、今のエチオピア付近出身の黒人でした。奴隷とされ、去勢され、エジプト経由でイスタンブールの宮殿に連れて来られる途中で、イスラームに改宗し、頭角をあらわし、出世したのです。

妻もないメフメット・アーは、宮廷生活で得た財を寄進し、メドレセやモスクやハمامといった、人びとの役に立つ施設をつくったのです。このモデルとしたメドレセ以外の建物もイスタンブールには残っており、人びとの集う場所として活用されています。

「トルコ イスタンブールの街」

古来より文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、イスタンブール。1600年もの間、いくつかの帝国の首都であった旧市街は、ユネスコの世界文化遺産にも指定されています。ここに復元した伝統的民家とイスラーム学院(メドレセ)の2棟は、オスマン帝国時代に建設され、今も旧市街にたち活用されている建物をモデルとしています。

展示家屋「イスタンブールの民家」



2階



1階

【家族をつなぐソファとセディル】

くるっと階段を上った2階が生活空間です。上がりきったところはソファとよばれ、2階の各部屋を連結する役目になる重要な空間です。

ソファに連続して、エイバンというくつろぎの間、もてなしの場があります。マットレスを敷き詰めた作りつけのベンチは、セディルといいます。セディルは、トルコの伝統的民家には欠かせないものです。

民家建築情報

木造3階建て住居（3階部分は屋根裏としており、展示はありません）
 建築面積 76.06 m²（約 23 坪） 延べ面積 146.82 m²（約 44.5 坪）

こうきゅうじゅうたくがい いえ
かつての高級住宅街の家

復元ふくげんのモデルとした民家みんかは、19世紀末せいきまつにスレイマニエ・モスクさんねんのそばに建てられたものです。残念ざんねんながら、誰だれが建てた家いえかは判りわかりません。しかし、近隣きんりんにはオスマン帝国ていこくの地方ちほうの県知事けんちじがイスタンブールしゅくはくで宿泊きやくじんし、客人きやくじんをもてなすための建物たてものがあり、その建築年代けんちくねんたいも同時期どうじきなので、19世紀末せいきまつとうじ当時は高級こうきゅうかんりょう官僚くわんりょうなど富裕層ふゆうそうが暮らす住宅街じゅうたくがいであったと考えられます。

イスタンブールは、7つの丘おかの上うえにたつ街まちといわれていますが、そのひとつがスレイマニエ・モスクおかのある丘みです。見晴らしも良く、風通しも良い丘かぜとおの上よの瀟洒おかな家屋うえ。この家の持ち主しょうしゃも、それなりの地位かおくの人いえ、そしてそれなりのお金持ちもぬしであったと想像そうぞうされます。

ナザール・ボンジュウ Nazar Boncuğu

民家みんかの玄関げんかんの上うえには、目玉めだまをかたどった青いガラス玉あおがかかっています。トルコ語でナザール・ボンジュウたまというお守りまもりです。ナザールめが「目」、ボンジュウだまが「ガラス玉」を意味し、この家の人たちへの「ねたみ」、いみ「そねみ」、いえ「うらみ」といった悪意あくいをもった視線あくいを避ける、除けるためのものです。この悪意あくいをもった視線あくいを邪視じゃしとよびますが、意識いしきして投げる邪視なだけでなく、無意識じゃしに投げかける邪視むいしきもあり、容易なに避けることはできません。そうした邪視じゃしを避けるために、トルコの人ひとびとは質素しつそな生活せいかつを心がけていたのですが、どこからこうした悪意あくいを受けるか分からないために、青い目玉あおのお守りめだまを家の壁まもにかける習慣いえをもつのです。

トルコのお土産店みやげてん「ラーレ」には、いろいろな形かたちのナザール・ボンジュウがあります。ぜひ、ご自分じぶんのために、あるいはお土産みやげにお求めもとめください。